

1. 法人本部

はじめに

2014年度は、2010年度より進めて参りました「社会福祉法人るうてるホーム中・長期計画」（以後、この計画を2009年中・長期計画と表記する）の最終年となりました。これについては、(1)2009年中・長期計画の総括において報告いたします。

また今年度は、2013年10月より移転開所した新施設において、通年で事業を行う最初の年度となりました。

2009年中・長期計画の最終年にあたることもあり、2013年10月～2014年9月までの収入実績、支出実績を踏まえて2015年度より五カ年にわたる「中期経営計画」策定を行いました（2014年11月理事会にて承認）。2015年度より三年毎の介護保険の見直しが行われることもあり、今後の介護保険の動向も踏まえて作成しました。あえて「中期経営計画」としたのは、2018年に改定される介護保険改定を見据えつつ、建物の保全計画を含む長期的な計画を別に策定する必要があると判断したためです。

法人は建替え事業を終えて、より一層お客様に対するサービスの向上という課題に集中し、運営が行われてきました。ほぼ建替え計画においてシミュレーション通りの決算を得ることができたことは、るうてるホームを日頃支えてくださっている方々のお力と、お支えのもとにあることとして心から感謝してご報告をさせていただきます。

(1) 2009年中・長期計画の総括

- ①「経営基盤の確立」につきましては、2010年度～2012年度の三年間で、およそ1億円の事業活動収支差額を得ることができ、「建替え事業の推進」を下支えすることができました。支出の見直しを徹底的に行い、また収入面では特養における誤嚥性肺炎への取り組み等、各事業所においても可能な加算の取得を積極的に行うなど、サービスの向上によって増加を果たすことができました。適正な人員配置も職員の創意工夫で実現してきました。労働条件の改善にも、現場の意識改革を中心に実施されてきたことも、職員の定着率の向上とサービスの向上に寄与しています。建替え事業が実施された2013年度は、建物の急速な老朽化による利用者の減少（特に軽費老人ホーム）、引越等、予想できない収入減の状況と共に、建築コストのうち1億円近くの備品が事業活動収支差額に組み入れられたこともあり目標を達成できませんでした。2014年度につきましても、建替えによる大幅な減価償却費の増加を2009年中・長期計画作成時には見込んでいないこともあり目標を達成できませんでした。資金収支差額においては黒字を確保しております。「建替え事業の推進」の報告でも触れますが、「経営基盤の確立」における最も重要な、不動産の再取得を実現できたことは、今後の中・長期計画の策定、実施のためには不可欠なことであったと考えます。
- ②「人材育成」につきましては、2010年度より精力的に取り組んできました。内部研修としては、職種別、階層別研修を定期的を実施してきました。特に法人理念の学びについては、チャプレンによる学びだけに留まらず、外部より講師を招き取り組んできました。外部研修も積極的に参加してきました。宗教法人日本福音ルーテル教会の主催する理事研修会、ルーテル社会福祉協会の研修会、るうてる法人会連合の研修会にも毎年参加しています。これらの取り組みを進めていく中で、2013年度より人事考課を取り入れ、各人の目標管理を実施してきました。この評価システムをもとに人事考課が具体的に賞与と給与に反映されています。これら「人材育成」につきましては、いずにせよ息の長い取り組みが肝要だと理解しています。継続してこれらの研修、制度が人材育成へと深くつながっていく努力を進めて参ります。
- ③「建替え事業の推進」につきましては、2011年12月に新事業を展開することのできる用地取得。2012年8月(株)フジタが竣工工事落札、2012年10月に起工式を実施。2013年9月に竣工検査が実施され10月に引き渡し、竣工式が実施されました。同月、野村工務店へ旧跡地が売却されました。これによって、2009年に計画した移転計画のすべてが完了したことにな

ります。「建替え計画」につきましては、2000年以降、主に軽費老人ホームの建替えに焦点をあてたものではありませんでしたが、法人は何度も「経営基盤の確立」をはかるために、不動産の取得を目指してきた経緯があります。当初は、軽費老人ホームのみの移転建替え計画、現有地における建替え計画と、様々なプランが試行錯誤され、最終的に現有地における全面建て替えは、居室の規定面積の増加もあり不可能と分かりました。ここから法人は、はっきりと全面移転計画というビジョンを2009年に策定し、これを実現することができました。今後は建物のメンテナンスを計画しつつ、これらの保全に努めるとともに、必要な時期に必要な改修を実施し、建物の価値を可能な限り損なわない努力をしていく所存です。

(2) 2014年度の法人の取り組み

- ①「理念・価値の継承と共有」につきましては、2015年2月に東京老人ホームと共同で、「人材育成を理念から考える」として主任級以上の職員が共に研修をすることができました。今後の法人の二十年を支える職員が、正しく理念をもとにした事業運営を実現させていく一歩になればと願っております。
- ②「全員参加型の経営実践」につきましては、各委員会が積極的に機能を開始した年となりました。危機管理委員会は、内部監査に取り組み、介護保険において適切な運営が実施されているかを検証する時となりました。加えて、新施設における非常訓練を計画、実施しました。また安全衛生委員会は新しい施設における職員、入居者の検診システムの確立に努めました。地域交流委員会は10月に「プレ50周年」として、地域向けのプログラムを実施し100名を超える方々がホームを訪れてくださいました。
- ③50周年記念事業について計画を策定しました。

(3) 理事会・評議員会

- ①2014年度に行われました、理事会・評議員会は以下のとおりです。

2014年	5月29日	第1回理事会	第1回評議員会	於：るうてるホーム
2014年	11月27日	第2回理事会		於：るうてるホーム
2015年	3月26日	第3回理事会	第2回評議員会	於：るうてるホーム
- ②監事監査は、2014年11月27日（事業）、2015年5月21日（運営）に行われました。

(4) 2014年度事業概要（2015年3月31日現在）

- ①実施事業数：16事業（うち四條畷市委託事業3）
（老人福祉法・介護保険法）
軽費老人ホーム（ケアハウス）、広域型特別養護老人ホーム、短期入所生活介護、通所介護事業、訪問介護事業、訪問看護事業、居宅介護支援事業、地域包括支援センター
（障害者総合支援法）
多機能型（生活介護・就労継続支援B型）、居宅介護等支援事業、日中一時支援事業、短期入所事業
（市委託事業）
配食サービス事業、シーツ包布貸与事業、外出支援移送サービス事業、
- ②総事業費 615百万円（13年度554百万円）
- ③職員数 122名（うち非正規・嘱託61名）

2. 委員会報告

(1) 危機管理委員会報告

- ①内部監査について
ア. 最懸案事項であった内部監査については、内容の検討を行い、11月と3月の計2回実施できました。対象事業所は、第1回目：通所介護事業所、第2回目：短期入所生活介護事業所（いず

れも介護予防を除く)です。狙いどおり、主任、リーダー級の現場職員が課題意識をもち、主体的に取り組むことができました。

イ. 明らかになった課題は、下記のとおりです。

- ・法人全体で文書の保管・保存方法にばらつきがある。
- ・文書の廃棄時期が整理されていない(現状の文書規程が実態に即していない)。
- ・職員により、身体拘束の要件や加算内容などを理解していない。
- ・設備、備品が正しく設置されていない。安全配慮が不十分である。

ウ. いずれにしろ、自主点検表による事業所運営状況のチェックは、最低ラインの確認でしかありません。今後、サービスの質を高めるためには第三者評価等の受審も必要であると考えられます。

②避難訓練について

ア. 避難訓練は法令どおり、年2回実施しました。第1回目は日中、第3回目は夜間想定です。新建物になって初めての訓練だったこともあり、設備の使用方法や動線に戸惑うばかりでした。特に第3回目は点呼に時間がかかり、大幅にタイムロスをしてしまいました。

イ. 一方で非常災害時連絡網を実際に発動させ、連絡の流れを確認することができました。

③その他

ア. 監事監査の中で震災対策について指摘がありましたが、十分に取組みませんでした。居室の家具については、各事業部で安全性を確認しました。

イ. 交通事故の発生などを鑑みると、安全運転講習会の実施を検討しましたが、準備が整わず、次年度実施としました。

(2) 地域交流委員会報告

①活動方針

2014年度は地域とのよりよい関係を築くための活動を行い、ボランティアに関連する事項の整理と職員への福利厚生についての整備をすすめました。

②活動内容

ア. 委員会は7回開催しました

イ. 2014年10月19日に移転一周を記念して「ウェルカムるうてる祭」を開催しました。当日の来場者は約230名で、多くの地域の方に参加していただきました。

また、近隣の事業所にも協力していただき、作業品の販売や模擬店などで出店を行いました。

るうてるホームとしては、ぜんざい、おでんなどを無料でふるまい、子供対象としたゲームコーナーを設けました。

ウ. 「ウェルカムるうてる祭」終了後、職員慰労会を開催し、約60名の職員が参加しました。

マルワ給食に協力依頼し、すしやサンドウィッチ、ステーキなどの食事を提供してもらいました。

エ. 市社協からの依頼により、赤い羽根共同募金の活動を行いました。

(3) 安全衛生委員会報告 (委員長 米田節子)

①定期健康診断

移転後初めての健診を医療法人朋愛会により実施しました。多目的室を中心に機能的に実施でき、レントゲンはデイサービス側の駐車場を利用しました。

ア. 入居者健診 実施時期 9月29日 受診者数 ケアハウス・特養 計101名

イ. 職員健診 実施時期 10月7日、10月24日 受診者数 116名

②職員個別健康相談

昨年までは協会けんぽから相談員が来訪していましたが、2014年度より嘱託医により実施し、10名から相談を受けました。

③インフルエンザ予防接種については入居者88名、職員132名が接種しました。

④研修

ア. 感染症対策研修

四條畷保健所保健師による講義と吐物処理演習を行い、22名が参加しました。

イ. 高血圧予防研修を2名受講しました。

⑤衛生委員会

ア. 2014年度より嘱託医が産業医に就任しました。同時に衛生管理者も設置し、月1回の衛生委員会を10回開催しました。内容は、職員の労働衛生環境確保につき、毎回時期に沿ったテーマを検討しました。

イ. 職場巡回を実施しました。

⑥腰痛予防対策

ア. 職員健診に「腰痛問診票」に各人が現状を記入し提出してもらいました。状況により、緊急度の高い職員から嘱託医による個別診察を行いました。

⑦その他

労働安全衛生法改正に備えて、腰痛予防対策とメンタルヘルスケア対策の準備をすすめました。

3. チャプレン

(1) 業務報告

法人理念の浸透のために、全体研修会として賀来周一氏（キリスト教カウンセリングセンター理事長）をお招きして、職員向けに2回、入居者向けに1回の講演を頂くことができました。内容は、「スピリチュアリティ」として、死生観を含む幅広い内容でお話をお聞きすることができました。賀来先生は看護師向けにお話する機会も多く、死にゆく人の傍らに、同じ向きに立つ関わりの意味を語ってくださいました。特養における看取りの備えになればと願っております。

またルーテル学院大学の前学長の市川一宏氏には秋に全体研修会として講演をお願いすることができました。「今、私たちに求められていること」という主題でお話を頂きました。市川氏のキリスト者として社会福祉に関わる動機や理念を伺うことで、職員もまた身近にキリスト教の理念に触れることができたのではないかと考えます。

法人ニュース（letter one）は2回発行し、法人の行動指針である、アッシジのフランチェスコの祈りについて取り上げました。

後援会ニュースは、法人報とあわせて3回の発行としました（6月、12月、3月）。内容の充実を求めての期間変更を試みました。内容については、紙面を拡充し（4ページから8ページ）、充実することができました。2015年度については以前の3カ月毎に戻して発行する予定です。

2014年度のクリスマス会は、昨年同様デイサービスを会場として、すべての事業所の協力を得て実施することができました。感謝してご報告させていただきます。

4. 軽費老人ホーム ケアハウスるうてる

(1) 運営状況

2014年度は入居者8名、退居者7名で年間通じてほぼ満室の状況でした。内訳としては、常時介護が必要になり、特養の短期入所利用を経て退居に至った方や長期入院となり退居となった方などです。現在、7割ほどの方が要支援、要介護認定を受けておられ、介護保険サービスの利用が増加傾向となっています。また介護はあまり必要とされない方でも、医療面で何らかの支援が必要な方はおられる状況です。介護保険サービスを利用するまでもない方や、日常的にちょっとした「お手伝い」が必要な方に対して、法人内事業所「ジョイフルるうてる」の有償サービスの導入もはじめ、好評を得ています。

今年度は入居者同士がお互いの心をつかみ、親しい関係を築いていくことができるよう、職員はサポートに徹してきました。その結果、各ユニットの方々が誕生会やお茶会など「交流を深める場」がそれぞれ自発的に企画されたことは、この一年の素晴らしい成果であったと思います。入居者の自立心を尊重していく中で、お一人おひとりが生活環境を整え、自分らしい生活を始められた一年となりました。

(2) 事業実績

①利用状況

	2014 年度	2013 年度 () は旧軽費	差異
のべ利用者数	17,241 名	14,435 (6,219) 名	2,806 名
入院のべ日数	694 日	779 (420) 日	▲85 日
短期入所利用日数	279 日	476 (315) 日	▲197 日
稼働率 (対実員)	94.5%	81.5 (72.3)%	13%

②入居者の現状 (2015 年 3 月 31 日現在)

年齢	60～69 歳	70～79 歳	80～89 歳	90～99 歳	100 歳以上	計
男	2	6	3	2	0	13
女	0	9	17	11	0	37

最高齢：男 97 歳 女 97 歳 平均年齢：男 79 歳 女 83.8 歳 全体 82.6 歳

介護度別	要支 1	要支 2	介護 1	介護 2	介護 3	介護 4	介護 5	計
男	0	0	6	1	0	0	0	7
女	6	5	10	5	2	0	0	28

介護保険利用状況	2014 年度	2013 年度 () は旧軽費	差異
訪問介護	26	27 (16)	▲1
訪問リハビリ	2	6 (2)	▲4
通所介護	20	19 (6)	1
福祉用具レンタル	16	14 (6)	2
介護タクシー	0	1 (1)	▲1
訪問看護	3	5 (1)	▲2
短期入所	1	5 (2)	▲4
計	68	77 (34)	▲9

※単位は実人数。複数サービスを利用している方がいるので合計は定員を超える。

5. 特別養護老人ホームるうてるホーム

(1) 運営状況

2014 年度はお客様の「暮らし」に重点を置き、試行錯誤しながらユニットケアに取り組み、ケアや環境を整えることにチャレンジした一年でした。ケアプランと連動させながら個々の支援内容を見直し、自立に向けた介助方法への変更や福祉用具の導入などを推進しました。ユニットにおいては、備品や家具の見直し、レイアウトの変更等を行い、リビングをはじめ生活空間が居心地の良いものとなるよう環境整備に努めました。

また、医療機関の入院日数短縮化の方針により、全快ではない状態で退院して来られる方も少なくありませんでしたが、職種間で連携し、前向きに受け入れを行うことができました。ご家族の希望を受け、看取りに向けて具体的な対応を検討することもありました。

(2) 事業実績 (定員 50 名)

	目標	2014 年度	2013 年度	目標との差異
のべ利用者数	17,338 人	17,195 人	16,267 人	▲143 人
稼働率	95.0%	94.2%	89.1%	▲0.8%
平均介護度	—	4.0	3.9	—

※入院者は 28 名減、のべ入院日数は前年の半分となりました。2 名が 3 ヶ月以上の入院により退居されました。長期入院後の再入居はありませんでした。

※新規入居者 9 名のうちショートステイから継続の方は 8 名。ケアハウスの在籍者は 4 名でした。

※低所得や生活保護受給により、6 名の方が社会福祉法人減免の適用対象となりました。

利用者の現況 (2015 年 3 月 31 日現在)

年齢	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	1	2	4	1	0	8
女	1	4	9	23	5	42

最高齢：男 92歳 女 105歳 平均年齢：男 81.9歳 女 91.4歳

利用年数	～1年	1～4年	5～9年	10～14年	15～19年	20年～	計
男	2	4	2	0	0	0	8
女	6	22	12	1	0	2	42

平均在所期間：3.8年

6. るうてるホーム短期入所生活介護事業所

(1) 運営状況

2014年度は定員20名で運営をスタートし、徐々に実績を伸ばしていくことができました。目標には届きませんでしたが、障害者の利用を合わせると、稼働率は74.0%となりました。入居待機や療養、避暑等の目的で1ヶ月を超える長期滞在者は常時7～10名程あり、新規や緊急の利用についても積極的に応じました。新規利用者の内訳は、介護保険関係ではるうてる居宅介護支援事業所23件、他法人事業所34件、障害者総合支援法関係では12件あり、全体で見ると前年比3割増となりました。

障害福祉関係は行政も含め他市からの相談もあり、多様なニーズがあることを認識させられました。契約のみ交わしておくというケースもありましたが、見学や関係機関等の調整等、それぞれ丁寧な対応を心掛けました。ケアハウスでの生活が困難になられた方についても引き続き受け入れを行い、るうてるホームでの生活を継続できるよう支援しました。

(2) 事業実績（定員20名）

	目標	2014年度	2013年度	目標との差異
のべ利用者数	6,205人	4,731人	3,104人	▲1,474人
稼働率	85.0%	64.8%	60.8%	▲20.2%

※平均利用は12.9名/日でした。また一ヶ月以上滞在の短期入所利用はのべ2,615日でした。

※上記の他、障害者総合支援法に基づく短期入所利用が年間のべ671日ありました。

利用登録者の現況（2015年1～3月利用動向より）

年齢	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90～99歳	100歳以上	計
男	1	2	8	6	1	0	18
女	1	0	7	11	16	1	36

7. 通所介護事業 デイサービスセンターるうてる

(1) 運営状況

2014年度は「お客様と一緒に作るデイサービス お一人おひとりが主人公」のコンセプトを大切に取り組み、新しいデイサービスを創るという、意識の変革を必須条件としました。利用者がどのような目的でデイサービスを利用し、どんなニーズがあるのか、思いに寄り添い対応を考え、利用者の思いをかなえるサービスの確立への変換ができました。

また、担当ケアマネージャーからの相談をお断りしないように努め、どこまでできるのか、どうすればできるのかを考えながら、対応困難なケース、医療ニーズの高いケースにも柔軟に対応するようになりました。実績として体験利用を年間52名受け入れ、そのうち73%の方と契約ができたことにより、年間稼働率90.2%という結果を生むことができました。

新しい取り組みとしては、介護予防教室終了者を中心として「はっぴいカフェ」を始めました。介護保険の制度改正を視野にいれ、要支援の方の新しい活動場所としての取り組みを開始しました。利用者（ボランティア含む）が主体的に取り組んでいただけるよう関わり、地域と事業所が一体となっ

たスペースとなれるように取り組んでいます。

(2) 事業実績

	目標	2014年度	2013年度(下半期)	目標との差異
のべ利用者数	9,360人	9,849人	4,642人	489人
一日平均利用者数	29.8人	33人	30.5人	3.2人
稼働率(対定員)	85%	90.2%	87.3%	5.2%

①介護保険サービスは、新規利用44名、利用再開17名に対し利用休止者は48名でした。

8. 障害者多機能事業 ジョイフルるうてる

(1) 運営状況

生活介護は、年度当初の稼働率63.6%から年度末には94.5%となり、年間稼働率80.2%の実績をあげることができました。他市からの新規利用が多く、実績は今後も伸び続けている状況です。入浴設備が充実していること、小規模の特性から利用者の声を聞きやすく、柔軟な対応ができていることが実績に反映されていると分析しています。また年度途中には特別支援学校在籍中の利用相談があり、行政と連携し、制度を越えて対応することができました。

就労継続支援B型では、年度当初に利用者1名から開始し、年間で新規8名と少しずつではありますが、登録者数が増えてきました。作業内容として法人内の清掃業務の他に、ケアハウスの入居者への「孫の手サービス」を提供しました。これは入居者とコミュニケーションをとる機会にもなり、対人支援のトレーニングも兼ねることができました。

利用者支援としては、相談支援事業所と連携しての生活相談や外食を利用した生活訓練を実施し、お一人おひとりに合わせた支援と同時に利用者同士の交流を深められるよう取り組みました。工賃についても収支のバランスがとれるよう工賃規程を見直し、安定した支給が行えています。

法人内障害福祉事業をまたがって利用されるなど、日中活動、ショートステイ、在宅サービスがそれぞれ連携と情報交換を行いながら必要な支援を行ってきました。また、1月からは日中一時支援事業も開始し、障害児へのサービスを拡充しました。

(2) 事業実績

生活介護	目標	2014年度	2013年度(下半期)	目標との差異
のべ利用者数	1,928人	2,062人	743人	134人
一日平均利用者数	7.5人	8.0人	6.0人	0.5人
稼働率(対定員)	75%	80.2%	60.0%	5.2%

① 新規利用13名に対し、利用休止者は2名でした。

就労継続支援B型	目標	2014年度	2013年度(下半期)	目標との差異
のべ利用者数	1,285人	368人	9人	▲917人
一日平均利用者数	5人	1.4人	0.07人	▲3.6人
稼働率(対定員)	50%	14.3%	0.73%	▲35.7%

① 新規利用8名に対し、利用休止者は0名でした。

9. 四條畷第1地域包括支援センター

(1) 運営状況

2014年度は、「住民の持つ力を最大限に発揮する(住民力)」をキーワードに地域包括ケアの構築に向け、地域支援の充実を図ってきました。昨年度から引き続き、介護者である家族の支援として家族介護教室を定期的に行い、教室の開催を通じて各地区の民生委員、地区福祉委員との交流も行いました。

職員の実践力向上については、事業の活動根拠や職員自身の目標を整理することを目指して、職員会議やミーティングを活用して研修報告や個別ケースの検討をしてきましたが、事業の課題や考え方を整理し各職員が議題として提示するまでには至りませんでした。また、事業の担当職員が不在にな

ると事業の推進が滞ってしまう現状があり、自分以外の職員が関わるケースを把握することや、業務全般と自分の活動をすり合わせて考えられるようになるには課題が残ります。

地域包括ケアの構築に向けては、第6期の介護保険法改正に向け、四條畷市の介護予防支援サービス利用者のニーズ把握と地域との連携状況の「見える化」として、市内の3包括と支所とで資料作成を行いました。

(2) 事業実績

① 包括的支援事業

ア. 総合相談支援事業

相談実績	2014年度	電話	F A X	来所	訪問	その他	計
	実人数	212	0	31	64	11	318
	延件数	289	0	40	70	12	411
	夜間緊急	18	0	0	0	0	18
相談実績	2013年度	電話	F A X	来所	訪問	その他	計
	実人数	215	0	63	55	11	344
	延件数	296	0	74	63	12	447
	夜間緊急	0	0	0	3	0	3

イ. 介護予防ケアマネジメント業務

	2014年度	2013年度
二次予防高齢者ケアプラン作成数	0件	1件

ウ. 権利擁護事業 ()は実人数

	2014年度	2013年度
権利擁護に関する相談	4件(5人)	9件(9人)
高齢者虐待に関する相談	8件(9人)	3件(3人)

エ. 包括的継続的マネジメント業務 ()は延べ人数

	2014年度	2013年度
介護支援専門員支援に関する相談	16件(19人)	16件(17人)

② 指定介護予防支援に係る事業

	目標	2014年度	2013年度	目標との差異
要支援者ケアプラン作成数	1,500件	1,914件	1,564件	414件
うち委託件数	1,200件	1,612件	1,318件	412件
うち自事業所作成件数	300件	302件	246件	2件

③ 介護予防事業

ア. 介護予防普及啓発事業 介護予防教室・介護予防に関する講演会 ()は参加人数

	2014年度	2013年度
開催回数	3回(67人)	4回(90人)

イ. 地域介護予防活動支援事業 ()は参加人数

	2014年度	2013年度
運動サポーター養成講座	1回(3人)	0回(0人)
運動サポーターフォロー講座	1回(33人)	0回(0人)
運動サポーター連絡会議	3回(23人)	4回(41人)
カラコロ体操	76回(1,754人)	75回(1,490人)
その他の事業(ボランティア活動支援等)	6回(25人)	4回(20人)

ウ. 二次予防事業対象者に関する実態把握

	2014年度	2013年度
基本チェックリスト未回収者戸別訪問	129人	110人

④ その他の事業

ア. 家族介護支援事業 ()はのべ参加者数

	2014 年度	2013 年度
家族介護教室	12 回(104 人)	13 回(78 人)

イ. 認知症高齢者見守り事業 ()はのべ参加者数

	2014 年度	2013 年度
認知症に関する教室・講演会	1 回(12 人)	1 回(34 人)

10. ケアプランセンターるうてる

(1) 運営状況

総合相談機能の拡充への取り組みについては、年度当初に予定していた人員配置(常勤換算+0.5)ができなかったことから状況によっては新規依頼に対応できないこともありましたが、年間を通してプラン数の実務上ほぼ上限の利用者への支援が行えました。

専門性向上のために事業所全体と職員個別研修計画を昨年度から継続して作成しており、それぞれの職員の課題意識を明確にしつつ、積極的に外部研修を受講しました。

一昨年度より再開している社会貢献事業は、年間で2件支援しましたが、行政や社会貢献事業を実施している他法人との連携の必要性は継続した課題です。

2014年度を重点課題として取り組む最終年とした法令順守の徹底と点検については、業務水準を明確にする事業所内ガイドラインを完成させ、ケースファイルでの統一した書類の綴り方を再度確認しました。また、書類の保存・保管についても事業所内での取り決めを徹底し保存・保管のルール化を明確にしました。

ケアハウス入居者やショートステイ利用者へのケアマネジメントを通して、既存の制度・サービスでは対応できないニーズが明確になってきており、他事業部と協働しながら法人として有償サービスの実施を検討する定期会議を開始しました。

(2) 事業実績

	目標	2014 年度	2013 年度	目標との差異
介護ケアプラン数	1,920 件	1,739 件	1,713 件	▲181 件
介護予防ケアプラン受託数	360 件	426 件	452 件	66 件
一人あたり請求件数/月	33.7 件	34.6 件※1	34.4 件※1	0.9 件
一人あたり支援件数/月	36.5 件	38.3 件※2	38.3 件※2	1.8 件

※1…一人あたり請求件数 = [要介護ケアプラン数 + (介護予防ケアプラン ÷ 2)] ÷ 4.7(常勤換算値) / 月

※2…一人あたり支援件数 = (要介護ケアプラン数 + 介護予防ケアプラン) ÷ 4.7(常勤換算値) / 月

11. ヘルパーステーションるうてる

(1) 運営状況

新建物への移転後1年半が経過し、登録ヘルパー職員からは「立ち寄りやすくなった。」との声が上がっており、常勤職員、非常勤職員を中心にサービス提供の報告や伝達、様々な意見交換がしやすい雰囲気ができつつあります。また、ケアプランセンター、訪問看護ステーションと同室の事業所となった事で、法人内事業所間の情報交換、情報共有も密になっています。

新しいるうてるホームを活かした新しい視点での取り組みも、ケアハウスユニットへの朝の職員派遣は、ケアハウススタッフやケアプランセンターとの合同管理者会議等でその内容を再検討しながらそのあり方を模索しており、また、きめ細かな支援を目指した有償サービスの検討も開始しました。

また、デイサービスセンターるうてるやジョイフルるうてるとも利用者のニーズによって職員を派遣し合いました。

視覚障害者へのヘルパー支援を継続するため、今年度より必須となった同行援護従業者研修を受講しました。ただ喀痰吸引等業務の登録も目指していますが実施できていません。来年度に継続し

た課題とします。

下半期は年度当初に設定した事業方針に加え、非常勤及び登録ヘルパーの新規雇用への取り組みを重点的に進めていきましたが、新職員獲得には至りませんでした。

(2) 事業実績

	目標	2014年度	2013年度	目標との差異
利用者数(月ごと延べ人数) (うち障害者)	890人 (120人)	801人 (78人)	781人 (108人)	▲81人 (▲42人)
のべ訪問回数(介護保険)	8,000回	7,901回	7,031回	▲99回
〃(障害者)	1,800回	1,110回	1,665回	▲690回

1.2. 訪問看護ステーションの運営

(1) 運営状況

地域包括ケアの構築に向けて訪問看護事業が重要視されている社会情勢の中、上半期は事業実績も上向きであった反面、訪問看護師の補充も事業計画通りには進みませんでした。

9月に管理者が入院し、現職復帰の見通しがたたない中で、新たに管理者を任命し、関係機関や利用者などに協力を仰ぎながらサービス提供を縮小して事業を継続しました。訪問看護師に的確な助言や指示を与えていた前管理者の不在は職員にとって大きな不安をもたらすものでしたが、職員はそれぞれ主体的に利用者やご家族、関係機関との調整を行い、職員間の協力でサービス提供を継続するなど、個々の力量とチーム力の高さを発揮し、現状に対応しています。

また、請求事務等の事務処理においても総務部で行うようにするなど、法人全体でステーションの事業を支える体制へ移行を進めてきました。

このような状況の中でも、通所事業部との連携の中で医療ニーズの高い障害児に生活介護を利用していただくため看護師を派遣し、協働して支援を行うことも開始することができました。

(2) 事業実績

	目標	2014年度	2013年度	目標との差異
延べ利用者数	360人	316人	359人	▲44人
介護保険延べ件数	1,080件	990件	798件	▲90件
医療保険延べ件数	2,160件	2,251件	3,229件	91件

1.3. 栄養

(1) 運営状況

2014年度は利用者満足度の向上を目指し、新しいメニューの開発に取り組みました。同様の献立の繰り返しは食事の楽しみの減少や生活への満足度の低下につながりますので、この取り組みは今年度も継続していきます。夏まつりのような形式での、ユニットを越えたスタイルでの食事は、バリエーションとなって、コミュニケーションの場の提供になりました。

食事提供の方法も色々試行錯誤し、手順や段取りが確立されてきました。ケアハウスではユニット毎に配膳や方付けも入居者ご自身で行われるようになりました。利用者の食事への積極的な関わりを支えていくという目標は、参加型の手作りおやつの実施もできて、達成することができました。

入居者の健康維持という面では、栄養ケアマネジメントを充実させるための態勢を見直しました。栄養に関する業務内容を切り分け、食数計上などの事務につき、従来栄養士が行っていたものを、他の職員にも振り分け、栄養士がより専門業務に従事できるようにしました。特養の各ユニット会議にも出席し、きめ細かく健康状態の把握に努めています。

提供食数は昨年度と比較し、大幅に増加しました。

(2) 事業実績

		上半期	下半期	合計	2013 年度
ケア	実食数	22,822	23,697	46,519	38,313
特養	実食数	30,127	31,116	61,243	52,417
	経管	2,992	1,955	4,947	6,086
デイ	食数	4,764	4,742	9,506	9,314
障害	食数	727	785	1,512	584
配食	食数	590	564	1,154	1,522

(3) 事業実績状況

	特養	ケア	デイ	ジョイフル
4月	お花見御膳 2ユニット誕生会	お花見御膳 さくらユニット退院祝い	お花見御膳	お花見御膳
5月	創立記念 端午の日特別献立	創立記念	創立記念	創立記念
6月	郷土料理メニュー 4ユニット誕生会	郷土料理メニュー	郷土料理メニュー	郷土料理メニュー
7月	七夕特別献立 2,4ユニット誕生会	七夕特別献立	七夕特別献立 流しそうめん 季節の献立(はも)	七夕特別献立 流しそうめん 季節の献立
8月	1,2,3ユニット夏祭り 4,5ユニット夏祭り 6,7ユニット夏祭り	夏祭り 手造りおやつ (わらびもち)	夏祭り 流しそうめん	夏祭り 流しそうめん
9月	敬老会特別献立 5ユニット 流しそうめん	敬老会特別献立	敬老会特別献立	敬老会特別献立 流しそうめん
10月	1ユニット誕生会(2回) 4ユニット誕生会		運動会メニュー	運動会メニュー
11月	1ユニット誕生会		るうてる膳 文化祭特別献立	るうてる膳 文化祭特別献立
12月	クリスマス特別献立 クリスマスケーキ	クリスマス特別献立 クリスマスケーキ (喫茶)	るうてる膳 クリスマス特別献立	るうてる膳 クリスマス特別献立 鍋もの(2回)
1月	お正月特別献立 4ユニット誕生会	お正月特別献立	お正月特別献立 ご馳走の日	お正月特別献立 ご馳走の日
2月	節分特別献立 バレンタイン特別献立 4ユニット誕生会	節分特別献立 バレンタイン特別献立	るうてる膳 節分特別献立 バレンタイン特別献立 ご馳走の日	るうてる膳 節分特別献立 ご馳走の日
3月	雛祭り特別献立 1,2,3ユニット	雛祭り特別献立 ご馳走の日	るうてる膳 雛祭り特別献立	るうてる膳 雛祭り特別献立

* デイ るうてる膳 11月から再開

1.4. 総務部

(1) 運営状況

移転後の新施設で年間を通して事業を行った最初の年でしたが、今後の方針を立てる上での基準が

示された1年でした。

上半期は、主に業務環境の整備に注力しました。勤怠管理にタイムレコーダーを導入し、勤務実態を正確に把握することができるように整えました。また、保存文書や倉庫の整備についても、年限経過したもので前年度中に処分しきれなかった分を精力的に整理し、整然とした状態が保たれるようになりました。

下半期は業務の効率運営を推進することができました。介護報酬や自立支援、診療報酬の請求業務や、栄養関係の業務を一括して行うような体制を作り上げました。

情報の共有については、できるだけ情報を収集し、必要な情報を必要な部署へ適切に伝達することを目指していますが、まだまだ十分ではない部分があります。今後の課題にしていきます。

(2) 事業実施状況

①業務環境の整備

ア. 前年度中に処分しきれず、年限が経過した文書類を廃棄しました。倉庫以外の場所などに一時保管していたものを重点的に整理し、今後は定期的に処分できるよう整備しました。定例化するとともに、処分時に作業を簡便にするためのルール制定を行っていきます。

イ. 勤怠管理の一環として、5月からタイムレコーダーを導入しました。定着に時間は掛かりましたが、次第に慣れてミスも減少しています。正確な勤怠の把握により、業務内容の改善、向上につなげることができます。有給休暇の取得推進にも寄与するものです。

②効率的な業務運営

ア. 介護保険、自立支援、診療報酬などの請求事務の管理を総務で一括して行うようになりました。効率化の面だけでなく、請求事務に関するミスの減少やレベルアップ、担当者の育成も担っています。各事業所でバラつきがあった事務処理についても、質の向上によって足並みをそろえていっています。

イ. 総務の内部でも業務内容を見直し、これまで栄養室で全て行っていた事務を総務全体のものとしてとらえ、切り分けて担当するようにしました。これにより栄養士は専門業務により時間を配分できるようになりました。

ウ. 新会計基準への移行に合わせた新しい会計ソフトの導入は、日々の業務は順調に稼働し、徐々に使いこなせるようになっていきます。給与ソフトやほのぼのとの連動による効率化は、どこまで可能かどうかも含め、今後研究していきます。

③リスクマネジメントの取り組み

ア. 情報の共有化により、法人内課題解決や業務運営をサポートすることができるよう、日々情報に対し注意を払い、齟齬が起こらないよう取り組んでいます。観察する目や考察する力を個々に向上させていく努力をさらに続けていきます。

イ. 社会福祉法人の管轄が大阪府から四條畷市に変更になって初めての法人監査が12月にあり、今回は法人運営と会計部門に対して実施されました。今回は対象とならなかった栄養部門についても日々の業務の中できちんと整備していきます。

15. 四條畷市委託事業

(1) 運営状況

配食サービス、リネンサービス共に減少傾向が続いています。配食サービスについては、一時的な新規利用が数件ありましたが、一時的に利用されたのちに終了しています。リネンサービスは、新規利用者がありませんでした。外出支援移送サービスは、今年も実施することなく終わっています。

(2) 事業実績

①配食サービス

	2014年度	2013年度	差異
のべ利用者数	77人	74人	3人
配食数	1112食	1465食	▲353食

②リネンサービス

	2014 年度	2013 年度	差異
のべ対象者数	40 人	41 人	▲1 人
のべ枚数	487 枚	501 枚	▲14 枚

③外出支援移送サービス

	2014 年度	2013 年度	差異
利用実人員	0 人	1 人	▲1 人
延べ利用者数	0 人	1 人	▲1 人